

ダイヤモンドシンポジウム懇親会

卒業研究(計画)一覧

機械工学科

村川正夫研究室

(塑性加工)

柳沢 章研究室

(成形加工)

酒井茂紀・宮沢 肇研究室

(特殊加工)

窪田英毅研究室

(設計工学Ⅰ)

渡辺 寛・梅崎栄作研究室

(設計工学Ⅱ)

玉木 保・村上尚司研究室

(応用力学)

漆原富士夫・佐藤茂夫研究室

(金属材料)

鈴木 昭研究室

(機械技術史)

池田義雄・小倉 勝研究室

(熱工学)

町山忠弘・寺島幸雄研究室

(制御工学)

松本正勝・横谷真 郎・渡辺高 幸研究室

(流体力学)

電気電子工学科

宮地邦夫・大久保勝弘・青木 収研究室

(電気機器)

岩瀬 勝・森 正美研究室

(電気鉄道・電力応用)

原田達哉・佐伯正盛研究室

(高電圧・放電現象)

堀口光敏研究室

(電力応用)

広瀬洋一研究室

(電子物性)

長田重慶・伏見恒夫研究室

(機械加工)

中道一郎・石川 豊研究室

(電気材料・半導体プロセス)

堀田勝喜研究室（電気材料）		八田 達・日下部岱研究室（電子技術）		廣瀬治男研究室（電子通信工学・物性）	
山口義昭研究室（光通信・光電磁界論）		高橋篤夫研究室（材料部品・計測・制御）		石田之則・高橋明速研究室（通信工学・光応用）	
片山茂友研究室（マイクロコンピュータ応用・教育工学）		谷澤 茂研究室（超音波・計測・電子回路）		松田郁夫・丹羽次郎研究室（情報工学・システム工学）	
■ 建築学 科		北後 寿・加村隆志研究室（耐震構造計画・都市防災）		宮坂修吉研究室（建築計画・意匠）	
村口昌之研究室（建築意匠・計画・設計）		高橋 恒研究室（地域計画）		高橋久雄研究室（材料・構造）	
渡辺勝彦研究所（建築史・建築設計）		小林啓美研究室（地震工学）		波多野純研究室（都市史・建築設計）	
桑原文夫研究室（地盤工学）		伊藤庸一研究室（建築計画・住環境計画）			
榆井武一研究室（環境工学・都市設備・病院建築）		小羊真一郎研究室（環境工学）			
岩隈利雄研究室（建築計画・農村計画）		高橋雅充研究室（建築構造）			

大岸文夫研究室 (建築計画・建築設計)		川村清志研究室 (建築材料・構法)	
福田成二研究室 (都市計画・地域計画)		貫井光男研究室 (建築材料・腐食工学・海岸工学)	
黒津高行研究室 (建築構法・建築復原計画)		長谷川洸研究室 (制御工学)	
原利次研究室 (熱流体システム)		野口卓也研究室 (品質管理)	
中村洋一研究室 (画像素子材料)		飯倉道雄研究室 (情報技術)	
鈴木清研究室 (先端素材加工学)		石川博章研究室 (省エネルギーシステム)	
三宅正二郎研究室 (表面工学)		鈴木敏正研究室	
正通寺勉研究室 (数理計画)			
清島達郎研究室 (原子・分子物理学)			
鈴木康之研究室 (化学工学)			
塚林功研究室 (プラズマ)			
竹内淳彦研究室 (工業地理学)			
☆ ☆ ☆			

平成 4 年度

卒業生名簿

3 月 20 日付
確定者

機 械 工 学 科

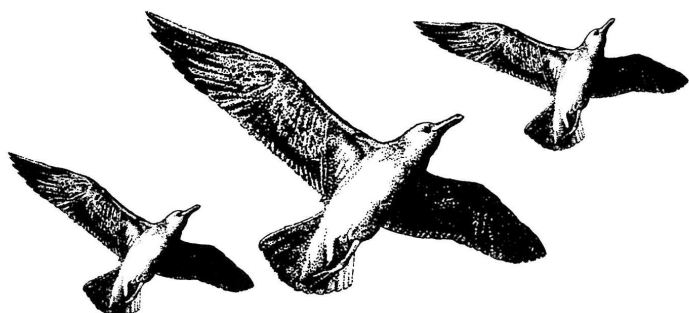
電 気 電 子 工 学 科

建 築 学 科

シ ス テ ム 工 学 科

訂 正

日本工業大学通信第六三
号記載の「平成四年度学内
特別研究費」一覧に誤りが
ありました。ここに訂正し
てお詫びします。
【削除】



定年

退職にあたって

本年度末をもって、電気電子工学科岩瀬勝教授・システム工学科長谷川教授・電気実験研究センター沖口侃教育技術員・工業技術研究所難波昭三専任講師の四先生が、ご定年で本学を去られます。多くの卒業生・在学生が、これら諸先生から良き薫陶を受け、多くの思い出を持っているものと思います。

そこで、ご定年にあたってのお言葉を、学科主任の経験もお有りになる岩瀬先生と長谷川先生のお二人よりいただきました。

宮代町と私

長谷川 洸



武動物公園駅の土を踏むとほっとして不思議と故郷に帰った様な寛ぎを覚える。大学の在る宮代町の仮住居十年。この空気が血管の奥底まで沁み込んで残り期間も僅かになった今、どちらが故郷か区別が付き難い気持。駅に着くのが大抵四時頃になるので日足の短い秋の頃だとそろそろ太陽も西に傾いて長い陸橋から見下す街の家々の窓ガラスが皆金色に輝いている。このまま

追悼

難波恒夫先生



建築学科教授難波恒夫先生が、一月十二日ご自宅で永眠されました。五十五才。慎んで追悼の意を表します。

ここに、生前の先生を偲んで、同じ研究室で一緒に研究をなされていた高橋雅充先生に追悼文をお寄せいただきました。高橋先生と共に、難波先生のご冥福を心よりお祈りしたいと思います。

建築学科を築きたれる皆さんが、構造力学概論や鉄骨構造で親しく教える受け付けた一数年、傍目には歩行バランス

真直ぐに住居に帰るのが惜しくなつて大通りをずっと公園近くまで歩いて行つて道谷橋から右に折れる。すきまの茂った川土手沿いに夕日の長い影を引つて歩いて行くと今度は左手に遊園地のジェットコースターが望まれ、折しも子供連を満載した車輦がそろそろ降り坂を登り切り、やがて恐怖と歓喜のまじった黄色い声を後に引いて矢の橋の下つていく。このシーンが大好きで立ち止まって眼をこらす。い

着実に
前向きで

岩瀬 勝



今年卒業して社会人の仲間入りする諸君、おめでとう。四月からは学生時代とは雲間気、環境、人間関係、毎日の生活リズムなど相当の変化があるのはいうまでもない。着実に前向きの気持ちで、それぞれの人生をきずいてい

が危うくなり、筆跡や言語の明瞭さが低下するといふ経過をたどられた。一年程の休職期間をご自宅療養され、お邪魔する度に科目や卒研の指導へのアドバイスを戴けて、好、不調の波はあったものの、病ながらお元気でいたのに。開学間もない六月四年四月に先生は建築学科助教授として本学に赴任されました。以来、構造系の教育研究の施設整備を、実質的に手掛けられ、常に研究室、学科更には大学の枠を超えた設備等の共用という視点で、現況に至る礎を築かれた。



ありし日の難波先生

専門の鉄骨構造では、一貫して筋道に関する研究を続けられていた一方、病と対峙された時期にはば重なる、埼玉の鋼構造物製作工場の認定に関する審査委員をされました。教員としての管理になる工場を、先生は敢然と認定不合格にし、徹底した改善を求めました。それに応えて次回この企業は、先生の若く活動的なイメージと重なりあうのです。

注目される本学建築学科
ネパール仏教僧院復原計画

本学建築学科教授・岩瀬勝教授、波多野純教授を中心に、一九九〇年以来進められてきた「ネパール仏教僧院（イ・バ・パ）復原計画」が、新聞紙上で大きく取り上げられた。取り上げたのは朝日新聞二月十九日付夕刊で、海外の文化遺産の保存・修復が声高に言われている現在、実際に人的協力をしている例はほとんどゼロの状態のなかで、本学の計画を実践例として紹介している。

本学の学長であった故藤岡通夫先生で、先生はご専門の城郭建築の他、ネパール建築についても造詣が深く、すでに二〇年以上も前から、中国とインドの二つの文化のほきまにあつて特異な存在であるネパール建築の、文化遺産としての世界的価値や保存の必要性を説いていた。

藤岡通夫先生を中心とした本学教員による研究「ネパール王国古宮の研究と保存対策」は、一九七八年から始めて、研究の成果は二冊の報告書としてまとめている。

告書としてまとめている。ネパール王宮建築の成立過程を解きあかすと同時に、その保存対策を目指したこの報告書は、世界的な評価を受ける。同時に、ネパール建築の保存の声がたかまる切掛けとなったのである。

今回、朝日新聞が取り上げた成果をもとに修復工事が進められているイ・バ・パとであり、資金面だけではない国際協力とは何かを問われている。

研究させてもらったお返しに、日本の大学が、僧院修復中、ネパールで日本工業大学、工費10%負担、教授ら4人が指導、カースト結み「難工事」。

広い視野と国際感覚を身につけるために

募集

夏季休暇を利用した 二つの海外特別企画

第21回 日本工業大学
ヨーロッパ研修
ヨーロッパを学ぶベストプラン

期 間：8月24日～9月12日(20日間)
費 用：598,000円
研 修 地：ロンドン⇄バルセロナ⇄パリ⇄チューリッヒ⇄ミュンヘン⇄ザルツブルグ⇄ウィーン⇄ヴェネツィア⇄フィレンツェ⇄ローマ

申し込み先：学生課・直村

平成5年度
英会話カナダ特別セミナー
本年度より英語の正規授業科目となります。

期 間：8月14日～9月7日(25日間)
授業科目名：英語海外研修(1～4年生対象)
単 位：2単位
費 用：528,000円
研 修 先：プリティッシュ・コロンビア大学(カナダ・バンクーバー)

滞 在 先：バンクーバーの一般カナダ人家庭
問合わせ先：英語科
申し込み先：教務課・大久保/渋谷(履修申告を行うと同時に、申込用紙を教務課まで提出のこと)

